

件名	令和 4 年度 福井市障がい者自立支援協議会 居宅生活支援部会 報告書	会場	福井市ボランティアセン ター  ※オンライン併用
場所	令和 5 年 3 月 3 日(金) 10:00～11:30		
進行内容	1. 報告事項 (1) R4 年度自立支援協議会全体会について (2) 強度行動障害児者の支援について (3) 「障がい者の余暇活動」改訂について 2. 協議事項 (1)今年度の取組内容と来年度の居宅生活支援部会について		
1. 報告事項	(1) R4 年度自立支援協議会全体会について：資料 1 参照 【部会長】 ・強度行動障害児者学習・交流会は居宅支援部会から立ち上がってワーキングチームで取り組みを進めてきたが、色んな所に関係することなので自立支援協議会として継続していくということを運営会議で話し合わせ、令和 5 年度からは自立支援協議会で取り組んでいく。居宅支援部会としても協力はしていく。 ・来年度の取組方針内容に『人材育成』とあるが『確保』というところが課題であることも伝えた。  (2)強度行動障害児者の支援について ・2 月 28 日に足羽福祉会を会場として集合形式で、強度行動障害支援者学習・交流会を開催。出席は全員で 27 名(生活介護事業所：7 名、共同生活援助事業所：4 名、居宅介護支援事業所：4 名、施設入所支援：1 名、相談支援事業所 4 名、委託相談 6 名,障害福祉課 1 名)。 ・「在宅生活を送られる方の事例発表」の後、困り感の共有ではなく、事例から感想を聞いたり支援者間や家族との連携について意見交換を中心に進行。 ・過去の事例発表事業所からの経過報告もあった ・交流会として参加者から困っていること等を共有。 ・行政報告：福井市内で強度行動障害のかたは 250 名(児童 19 名,大人 231 名)※福祉サービスの利用人数ではなく受給者証取得の人数。 ・アンケート結果や当日意見の報告。 ◎参考になった、活かせる(7 名) ◎次回開催への期待		

	<p>◎1人暮らしをしている強度行動障害者の自宅にヘルパーが訪問し、日常生活全般を支えているという現状事例から、『重度の障害がある方の1人暮らしができるのか』との率直な意見や『サービスの可能性が広がった』との意見などもあった。</p> <p>1人暮らしをしながらヘルパーの支援を受けて24時間生活しているケースを報告。課題の提出ではなく、ヘルパーのことをもっと知ってもらう機会となった。グループワークの中でも前回、前々回事例発表された方が課題として挙げた状況について、改善されたとの報告があり、継続が大事であると改めて思った。</p> <p><b>(3)「障がい者の余暇活動」改訂について</b> ※資料2 参照</p> <p>大枠は変更せず。コロナの影響で辞めてしまったサークルや活動状況が確認できない等で掲載していないものが6つあるが、部会員から協力あり新たに7つ追加することができた。継続掲載が9つ、新規追加7つ。写真が間に合わなかったものがあるが、事業所から提供あれば差し替えすることもある。今後も3年ごとに改訂予定である。市役所のホームページからアクセス可能。(※別紙参照)</p>
<p>協議事項</p> <p>質問・意見 →回答</p>	<p><b>今年度の取組内容と来年度の居宅生活支援部会について</b></p> <p style="text-align: right;">※資料3 参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来季に向けて、してほしいことややろうとすることについて、意見を求める。</li> <li>・福祉人材の育成について、どこの人材かを絞らないといけないのはいか。どの分野も不足していると思う。</li> <li>・多岐にわたるしそれぞれが抱えている課題があるので、ピックアップすることが大事だと思う。</li> <li>・課題のアンケートをとり何個か新しい課題をピックアップし取り組んでいくのがいいのではないかなと思う。</li> <li>・障がい理解の部分は段階的に継続してやっていかないといけないと思う。講座など、地区単位でいいから、地域に出ながら取り組んでいけたらいいと思う。社会福祉協議会が作成している活動計画にも、障がい理解の部分などがあり、協働できるといいと考えている。</li> <li>・障がい者に無縁の方への、部会としての提案が必要でないかなと思う。各グループやサークルの活動の紹介だけに留まっていたら、広まらない。部会として目的や今後どうしていくか等、何かの形でアピールするようなも</li> </ul>

のがあるといい。

・精神の家族会としては、当事者の実情は複雑で多岐にわたっているということを知ってほしい。実態の把握をしていく必要があると感じている。個人情報の保護があるため、連携の取り方など、距離感は難しい。

・福祉の人材育成という課題よりは、地域の課題の選出からしていくのがいいのではないか。

・昔は 50 家族だったが、現在は 30 家族くらいの在籍。強度行動障害のかたに対してスポットを当てていたが、講習会は全障害に関する話になってしまい、知的障害のほうからは「わからない」との声が上がる。基幹相談支援センターから、一般論＋知的障害の方向けの資料準備と講習をしてもらった。どういったサービスを受けるのに、どういった手続きをとればいいのかわからない方がいる。事業所の相談員がそれなりの知識をもって対応してくれればいいが、情報がない支援員の方がいたり、支援事業所を利用していない方は分からない。

・県内の知的障害者は 7000 人近くいる、全障害にすれば 50000 人くらいいるのではないか。資料などあれば、各障がい向けに使えるサービスなどの案内をして、生活しやすくしていけるといい。

・障害児は 40 代 50 代。親は 80 過ぎ。こどもと同時に親も要支援となってくる。他県では親子で施設入所出来たりしている。福井県でも検討してほしい。そういうところがなくても、親の支援とこどもの支援をセットにするような形での申請をして、やりくりしていけるように考えていきたい。

・部会の目指すところがわからない。問題が大きすぎると感じるため、着地点を狭めて考えていくといい。

・高校生以上・社会人・保護者の方を対象に、短期入所に関するアンケートを実施し集約している。保護者はやはり、将来的な心配が強い。居宅生活は、障害のある方が自宅で安心して生活できるための条件を、どのようにしていくのが大きいと感じた。条件をどう作っていくのかも、課題の一つとして考えていくことも必要であると考え。

・余暇活動については、公共交通機関などの情報も追加できるといいのではないと思う。人材育成に関して、支援者と当事者が一緒に学ぶワークショップを取り入れている県もあるので、これもいいと思う。

・居宅生活支援が目指すところが、どこに焦点を当てるといいかが難しいと感じた。これからの時代、家族構成が変わっていく中で、本人が安心して生活していく社会資源の一つとして、たくさんのグループホームが増えていくこともあり、居宅生活支援として、グループホームでのご本人らし

	<p>い生活を、地域で支援していくところに視点を置くことも検討してみたり年間活動の中にグループホーム支援員の参加があってもいいのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援者間の横の繋がりの部分で、相談する方がどこの誰に相談していいのかが明確になると、支援しやすいと感じた。</li> <li>・エリアや地区の団体向けに、地域理解・福祉理解を広める機会があるといい。</li> <li>・地域移行・地域定着部会の中に研修開催グループがあるので、連携を図るのもいいのではないかと思う。</li> <li>・社協とのコラボに関して、依頼を待つのではなく『このような説明ができる』『このような広報ができる』などのアピールを細かく周知してもいいのではないか。イメージとしては、『〇月△日にこのようなものをやります』や『〇〇協会の△△は、このような題名でこのような趣旨の研修を行います』などの案内を考えておいて、要望があった場合に備えて準備しておく。</li> <li>・障がい者が共通して取り組んでいること・何かのテーマについて自分であったら…と意見交換できるような場もあっていいのではないかと思う。</li> <li>・公民館などに、事前に出前講座などの案内をしてもいいのではないか。障がい者の日みたいなものを設定し、イベントなどを企画するのも効果的か考える。</li> </ul>
結論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートで掘り起こしをし、集約。</li> <li>・目的：本人らしく地域で過ごせる環境に向けて、何が必要か考えていく。</li> <li>・人材確保につながることを期待し、理解を求めるような催しも検討。</li> </ul>
その他	<p>その他</p> <p>※特になし</p>